

「VATS マーカー留置の安全性を検討する後方視的研究」

へのご協力をお願い

—平成 19 年 4 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日までに

岡山大学病院にて肺手術において術前に VATS マーカーを留置された患者様へ

研究機関名 岡山大学

責任研究者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻腫瘍制御学講座
放射線医学分野 教授 金澤 右

分担研究者

岡山大学病院	放射線科	講師	郷原英夫
岡山大学病院	放射線科	講師	平木隆夫
岡山大学病院	放射線科	助教	藤原寛康
岡山大学病院	放射線部	助教	生口俊浩
岡山大学病院	放射線科	医員	松井裕輔

1. 研究の意義と目的

本院では平成 5 年より肺腫瘍に対するビデオ胸腔鏡下肺切除術（VATS といいます）の際に、切除する肺腫瘍が小さくてどこにあるかわからなくなること避けるため、VATS マーカーという金属の目印を術前に体の外から針を刺して切除する肺腫瘍の近くに置いて手術にのぞんでいます。今回、VATS マーカーを置く手技の安全性を調べさせていただいております。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

平成 19 年 4 月 1 日から平成 25 年 12 月 31 日の間に肺腫瘍に対するビデオ胸腔鏡下肺切除術（VATS）の術前にマーキングのため VATS マーカー留置を行われた患者様のうち同時に複数個のマーカー留置を施行した手技をのぞいた 249 人。

2) 調査期間：

平成 26 年 5 月開催の倫理委員会承認後から平成 27 年 12 月 31 日まで

3) 研究方法：

平成 19 年 4 月 1 日から平成 25 年 12 月 31 日の間に当院にて肺腫瘍に対して胸腔鏡下肺切除術を施行された患者様のうち、術前に VATS マーカーを 1 手技において 1 個のみ留置された患者様を研究者が診療情報をもとにデータを選び、留置手技において合併症が生じなかったか、生じた場合は重篤度はどうであったかを評価いたします。

4) 調査票等：

研究資料にはカルテから以下の情報などを抽出し使用させていただきますが、匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・年齢、性別、既往歴、過去の治療歴、肺腫瘍の組織、VATS マーカー留置術の内容など
- ・血液検査データ
- ・胸部 CT、胸部レントゲン写真などの画像検査データ

- ・肺機能検査データ
- ・手術の記録
- ・病理学検査結果

5) 情報の保護：

調査情報は電子情報として岡山大学病院放射線科内で厳重に取り扱います。情報はパスワード等で制御されたコンピュータに研究中に加えて研究終了後3年間保存いたします。

調査結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。

この研究にご質問ありましたら下記までお問い合わせ下さい。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 放射線部

氏名：生口 俊浩

電話：086-235-7313 ファックス：086-235-7316